

お知らせ

症例検討会のご案内

北九州市立医療センターでは、地域の医療従事者の方々と一緒に医療技術向上のため、下記のとおり症例検討会を実施しています。

症例検討会名・開催日	時間・場所
■乳腺テクニカルカンファレンス 毎月 第2・4月曜日開催	時間：18時～19時30分 場所：別館6階 講堂
乳腺外科・放射線科・病理診断科の医師、放射線技師、臨床検査技師、スタッフで症例検討会を行っています。	
■呼吸器カンファレンス 毎週 火曜日開催	時間：17時～18時 場所：別館6階 講堂
呼吸器内科・呼吸器外科・放射線科・病理診断科の医師、スタッフで症例検討会を行っています。	
■消化管カンファレンス 毎月 第3木曜日開催	時間：18時～19時30分 場所：別館6階 講堂
消化器内科・消化器外科・病理診断科の医師、スタッフで症例検討会を行っています。	
■周産期症例検討会 奇数月 第3水曜日開催	時間：19時～20時30分 場所：別館6階 講堂
産婦人科・小児科・小児外科の医師、スタッフで症例検討会を行っています。	

※日程は都合により変更・中止になる場合がございます。事前に医療連携室へご確認の上、ご参加いただければ幸いです。
検討ご希望の症例がございましたら是非ご持参下さい。皆様の多数のご参加をお待ちしております。

研修会のご案内

日程	テーマ	講師
11月29日(火)	脳卒中、心臓病そして認知症にも関連する 高血圧症の薬物療法と栄養指導	循環器内科主任部長 浦部 由利 栄養管理係長 江淵 寿美
12月 8日(木)	心療内科医によるうつ病の話 ～うつ病は心の風邪なのか？～ あなたはどれくらい聞き上手？ ～話を聴くことについて考えてみる～	心療内科部長 福留 克行 臨床心理士 兵頭 憲二
1月26日(木)	人工肛門について	外科部長 石川 奈美 皮膚・排泄ケア認定看護師 川上 佳奈
2月23日(木)	婦人科がん診療の最近の話題 輝く女性のために心に寄り添う看護を目指して	産婦人科部長 竹内 正久 看護師主査 城戸田 しのぶ

▶ 場 所：北九州市立医療センター 別館6階講堂
▶ 時 間：18時30分～(1時間～1時間30分程度)

【問合せ先】
北九州市立医療センター 医療連携室 TEL.093-533-8660(直通)



第63号 ● 平成28年11月15日発行 発行人：北九州市立医療センター 〒802-0077 北九州市小倉北区馬場2丁目1-1 TEL.093-541-1831 FAX.093-533-8693
http://www.city.kitakyushu.lg.jp/page/hospital/center/



KMMMC Kitakyushu Municipal Medical Center 2016 November news



北九州市立医療センターニュース

第63号



＜本院の基本理念＞
わたくしたちは公共的使命を自覚し
心のこもった最高最良の医療を
提供します



INDEX	
病院局長ごあいさつ	1
院内紹介・がん看護外来の開始について	2
医療の進歩・免疫チェックポイント阻害薬について	3
医療の進歩・糖尿病の最新医療について	4
トピックス・筑波メディカルセンター病院での研修で得られたこと	5
看護の広場・中央手術部	6
トピックス・なかよし保育所 運動会	7
新任医師紹介	
人物クローズアップ・American Car Life!	8
登録医のご紹介	9
医療連携室だより	10
お知らせ・症例検討会・研修会のご案内	

病院局長ごあいさつ

本年4月に病院局長に就任して、早くも半年が経過いたしました。皆様には、日頃より地域医療の充実にご尽力いただくとともに、市立病院の運営にご協力くださり感謝申し上げます。

さて、福岡県では、地域医療構想の策定に向け、二次医療圏ごとに地域医療構想調整会議を開催し、病床機能（高度急性期・急性期・回復期・慢性期）別の必要病床数の推計や、各種データによる医療提供体制の現状分析を基に、将来の「あるべき医療提供体制を実現するための施策」等について検討が行われています。

北九州地区は、現状では、救急医療体制を始め、脳卒中やがんなどの疾病別の医療提供体制についても、診療機能、提供量、アクセシビリティともに良好な状況です。ただ、将来推計では、回復期機能が不足すると予測されており、今後の高齢化の進展を踏まえると、入院医療と在宅を繋ぐ回復期病床を確保するとともに、介護施設等の受け皿や在宅医療提供体制の包括的な整備が課題となります。

また、疾病別患者数の推計では、肺炎や骨折の患者の増加が見込まれています。認知症高齢者の増加と合わせて考えると、急変時の受入れ病院の確保とともに、介護施設等での誤嚥や転倒の予防対策が必要です。認知症のある患者さんを診ることのできる医師の確保が必要だとの意見もあります。

福岡県では、このような調整会議での意見等を踏まえた素案を作成し、パブリックコメント等の手続きを経て今年中に成案を得る予定としています。一方、こうした地域医療構想策定の取組みと並行し、総務省は、平成27年3月に「新公立病院改革ガイドライン」を示し、公立病院の一層の経営改革に向けて、平成28年度中に「新公立病院改革プラン」を策定するよう地方自治体に求めています。そのため、本市では、同プランの策定にあたり平成27年8月に外部有識者で構成する「市立病院のあり方検討会議」を立ち上げ、白紙から検討を開始しました。

検討会議では、まずは経営形態のあり方を中心に議論を進めることとなり、「地方公営企業法の全部適

北九州市病院局長
古川 義彦

用」「地方独立行政法人」「指定管理者制度」「民間譲渡」という4つの経営形態について、制度の違いやメリット・デメリットの比較検討、すでに独法化している先進都市の状況について議論を深めました。その結果、医療センターと八幡病院については地方独立行政法人化に向けた準備を進めるべきとのご意見をいただきました。地方独立行政法人は、現在の地方公営企業法の全部適用と比べて、政策医療をしっかりと行いつつ、より柔軟で機動的な運営が可能となる仕組みです。



▲「市立病院のあり方検討会議」の会議風景

また、医療センターに関しては、「地域の医療機関と連携しながら、今後がん医療を中心に担うべき」「今後のがん医療については、治療することに加え、患者さんやご家族の支援等についても充実・強化して欲しい」などといった意見が出されました。本市としては、このあり方検討会議における議論や、他都市の先進事例などを総合的に勘案した結果、医療センターと八幡病院については、独法化の準備を進めることにしたところです。また、医療センターにおける地域医療機関との連携強化や、患者さんやご家族への支援体制の充実強化にも取り組んでいきたいと考えております。

今後、少子高齢化や人口減少などを背景に、病院経営を取り巻く環境は全国的にますます厳しくなることが予想されます。本市としては、市民によりよい医療を提供するとともに、安定的な病院経営を行っていくため、努力を続けてまいります。地域医療機関の皆様のご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

院内紹介

がん看護外来の開始について

地域がん連携拠点病院の指定要件として、患者とその家族の心情に配慮した意思決定支援環境の整備および苦痛のスクリーニングの徹底と対応が求められています。

この要件遂行に多くの地域がん診療連携拠点病院では「がん看護外来」を設置していますが、当院でも平成28年9月1日をもって開設することができました。これまでも忙しく活動している「がん相談支援センター」は、対象が当院受診歴のない市民を含むがん患者さんやご家族ですが「がん看護外来」では、当院外来通院加療中のがん患者さんおよびそのご家族が対象です。「がん相談支援センター」は広範囲のがん相談に応じていますが、より専門的な知識を持った対応が必要となる患者さんがおられます。がん相談支援センターの少ないマンパワーのため十分な説明ができず、改善を求める患者さんの声が上がっておりました。「がん看護外来」では各がん看護関連の認定看護師（がん化学療法看護認定看護師、乳がん看護認定看護師、がん性疼痛看護認定看護師、がん放射線療法看護認定看護師、緩和ケア認定看護師）が対応し、より専門的な説明が可能になると思います。

具体的には、各科外来でのがん告知等インフォームドコンセント時の同席および専門性を生かした心理面の支援、つらさのスクリーニング用紙配布・回収窓口の一本化を行います。スクリーニング結果によって緩和ケアチーム（がん相談支援チーム）の介入を依頼し身体的ケア、精神的ケア、社会的ケアを含めたがん患者さんの全人的ケアを行ってまいります。外来でがん告知、再発・転移告知、緩和ケア移行をお勧めするなどのICを行う時点でがん認定看護師が同席した方が良いと判断される場合は、がん看護外来に予約をお願いします。がん患者さんは多くの不安を抱え、長い待ち時間後の短時



副院長 中野 徹



がん看護関連認定看護師（左から太郎良 純香、栗田 睦美、古賀 亜佐子、安藤 育枝）▲

間の診察で医師があまりに忙しそうで質問もしにくいとのアンケート結果と改善を求める要望書が出ております。医師による十分な説明はもちろん必要ですが、内容によってはがん認定看護師が別の場所でじっくり話を傾聴した方が患者さんご自身の安心、満足が得られる場合があると思います。また施行中の化学療法や放射線療法に不安を抱え食欲不振、不眠に陥っている場合は「つらさのスクリーニング」を再度行いますので、がん看護外来にご連絡下さい。

予約方法は電子カルテ「再診予約・他科受診」より診療グループ「認定看護師」のなかの予約枠「がん看護外来」を選択し希望日時を予約してください。各科外来にがん認定看護師の同席を希望される場合には上記認定看護師に電話をお願いします。がん看護外来は9時～11時、13時～15時に患者さん1名に対し1時間の予約枠を設定しています。当院は地域がん診療連携拠点病院としてがん患者さん一人ひとりにきめの細かい対応が求められています。職員全員が患者さんの苦痛を拾い上げるアンテナを広げそれを和らげるツールとして「がん看護外来」を認知し活用されますようお願いいたします。



免疫チェックポイント阻害薬について



腫瘍内科 主任部長 若松 信一

高額な薬剤費（約年間3,500万円）でマスコミにも日本の医療が破綻すると話題になっている薬剤があります。免疫チェックポイント阻害薬と言われる、新規の抗体薬になります。

確かに高価ですが、今までにない効果も秘めた薬剤です。作用機序として今までの殺細胞性の抗がん薬とは違い、がん細胞から攻撃を受け、無力化された自分のT細胞を再び元気にしてがん細胞を自分の免疫の力で排除しようとする薬です。がん細胞は少数ながらも健康な人体にも存在します。病気として発症しないのは自己免疫により、がん細胞を排除することが可能だからです。しかし、がん細胞が増えてくるとがん細胞は排除されないよう免疫細胞の攻撃を回避するようになります。これが「がん免疫逃避機構」と呼ばれ、免疫細胞が正常に働かなくなり、ますますがん細胞が増えていくと考えられています。

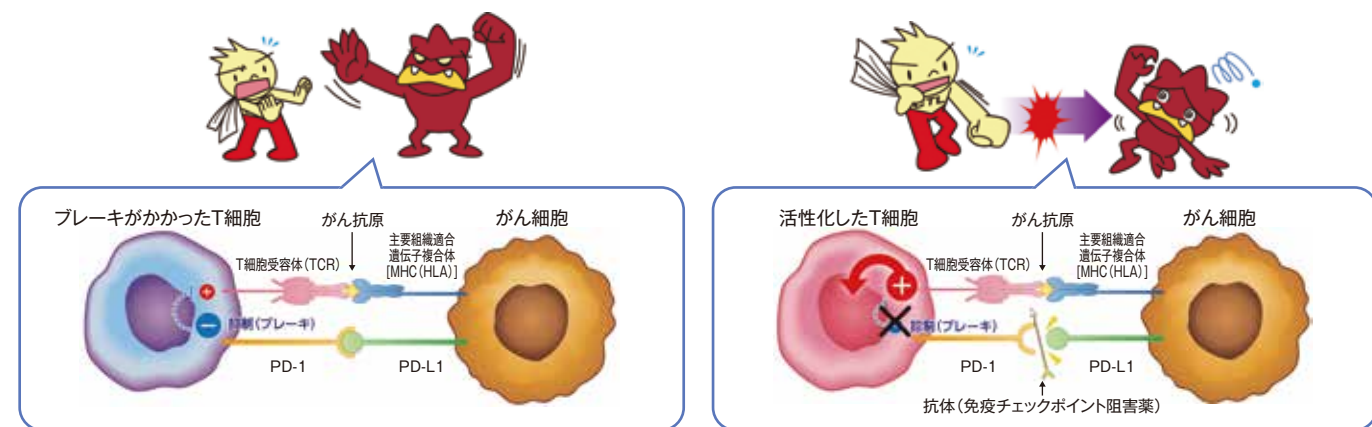
がんに対する免疫機構を正常化することでがん細胞を排除しようと作られたのが免疫チェックポイント阻害薬です。がん細胞がもつPD-L1 (programmed cell death-1 ligand)とT細胞上にあるPD-1が結合するとT細胞の働きを弱めるためこのPD-1に蓋をして、結合しないようにする分子標的薬剤がPD-1抗体薬です。自己免疫を高めることで効果の出る薬剤ですから、副作用も今までの抗がん薬とは違ってきます。いわゆる自己免疫疾患（甲状腺機

能亢進症、機能低下症、劇症型糖尿病、間質性肺炎、大腸炎、肝炎、膵炎、下垂体機能不全、重症筋無力症）の頻度が高く、全科を挙げての副作用対策が必要となってきます。基本的に通院治療となりますが、副作用の発症時期もまちまちで急速に重症化するため適切な処置が必要となってきます。当院でも職員を対象に副作用に対する勉強会などを行っています。

現在PD-1抗体であるオプジーボ（ニボルマブ）とCTL4阻害薬のヤーボイ（イプリムマブ）が発売されており、前者は2014年7月に根治切除不能な悪性黒色腫、2015年12月に切除不能な進行・再発の非小細胞肺癌に使用され、今年の8月には根治切除不能または転移性腎がんに対して、適応が認められました。ヤーボイはまだ悪性黒色腫にしか使うことができません。免疫チェックポイント阻害薬の効果を確かめる臨床試験もたくさん行われており、今後もいろいろながん腫に適応が拡大されると予想されます。また、PD-1抗体薬キイトルーダ（パンプロリズマブ）も発売を控えています。

腫瘍内科でも切除不能な悪性黒色腫の患者さんに使用し、呼吸器内科、呼吸器外科を中心に肺がんの患者さんに使用しています。

根治切除不能な悪性黒色腫の患者さんがいらっ



出典：小野薬品工業株式会社 Webサイトより
<https://www.ono-oncology.jp/contents/patient/>



糖尿病の最新医療について ～高齢者糖尿病の観点より～

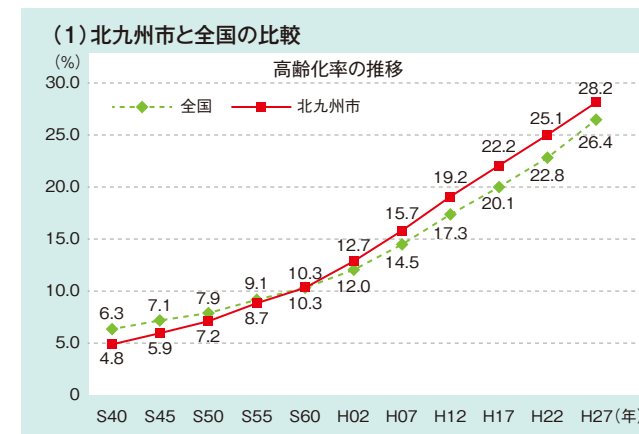


糖尿病内科 主任部長 佐藤 直市

2012年の厚生労働省による調査では糖尿病が強く疑われる方は950万人、可能性が否定できない方は1,100万人と、合計すると2,050万人の方が血糖値に異常があるとされています。

北九州市でも例外ではなく、2014年の特定健診では

図1 北九州市の高齢化について



【出所】平成22年までは総務省「国勢調査」（各年10月1日現在）
 平成27年は、北九州市が住民基本台帳（平成27年3月31日現在）
 全国が総務省統計局「人口推計 平成27年4月1日現在（概算値）」

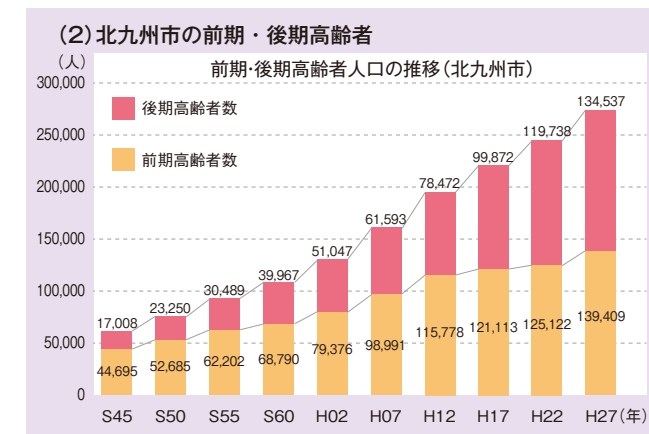
高齢者の2型糖尿病の特徴としては

- 病歴が長く、インスリン分泌の低下により血糖コントロールが難しい
- 年齢、身体的、精神的機能、余命、併存疾患やご家族のサポートなどに個人差が大きい
- 低血糖の症状が乏しく、重症化しやすい
- 合併症を防ぐのみでなく、身体機能や精神機能の維持が重要である

などを上げることができます。特に近年低血糖が認知機能低下、心血管疾患の発症、身体活動の低下、転倒などによる寝たきりの原因となることが明らかとなり、各種ガイドラインにおいて高齢者の血糖管理は重症低血糖のリスクを常に考慮し、患者さんの身体機能、認知機能に応じて段階的かつ緩行的に行う方向となっています。本年5月に定められた我が国のガイドライン（図2）では、インスリンやSU製剤を使用している患者さんでは管理目標を変えていることや血糖コントロールの下限を設定することで、特に低血糖に対して配慮していることが特徴として挙げられます。

高齢者2型糖尿病治療の第一選択薬として我が国ではDPP4阻害剤が使用されることが多いですが、目標に達しない症例も多く、血糖改善効果、低血糖のリスク、合併症抑

9.2%の方でHbA1cが6.5%以上と福岡県下の市町村でも第2位となっています。この原因としては北九州市の高齢化率（65歳以上の人口の割合）が28.2%と政令指定都市の中では第1位であり、特に後期高齢者の増大が著しいことが考えられます（図1）。



【出所】平成22年までは総務省「国勢調査」（各年10月1日現在）
 平成27年は、北九州市住民基本台帳（平成27年3月31日現在）

制効果、患者さんの治療アドヒアランス、懸念される副作用などから以後の選択薬を検討しています。また以前より複数の薬剤にて治療されている患者さんについても至適な血糖コントロールのため、減量・中止する薬剤を検討することも大切と考えており、医師患者間の十分な信頼関係や患者さんのご理解も必要となります。

今後ますます高齢化する糖尿病治療の現場において患者個々の多様性を考慮した上で、QOLを担保した最適な治療を選択していくことがますます重要となると考えます。

図2 高齢者糖尿病の血糖コントロール目標（HbA1c値）

患者の特徴・健康状態	カテゴリーⅠ		カテゴリーⅡ		カテゴリーⅢ	
	①認知機能正常 かつ ②ADL自立		①軽度認知障害 ～軽度認知症 または ②手段的ADL低下、 基本的ADL自立		①中等度以上の認知症 または ②基本的ADL低下 または ③多くの併存疾患や 機能障害	
重症低血糖が危惧される薬剤（インスリン製剤、SU薬、グリニド薬など）の使用	なし	7.0%未満	7.0%未満	8.0%未満	8.0%未満	8.5%未満
	あり	65歳以上 75歳未満 7.5%未満 (下限6.5%)	75歳以上 8.0%未満 (下限7.0%)	8.0%未満 (下限7.0%)	8.5%未満 (下限7.5%)	

トピックス
Topics

筑波メディカルセンター病院での 研修で得られたこと



臨床検査技術課 臨床検査技師 衣非 南美



▲筑波メディカルセンター病院 緑と自然に囲まれた環境で、遠くには筑波山も望めます

診療支援部臨床検査技術課、生理機能検査室で主に超音波検査に従事しております衣非南美と申します。この度、当院の留学制度を利用して2015年11月から1ヶ月間筑波メディカルセンター病院で乳腺画像診断（超音波検査）の技術向上を目的とした短期研修をさせていただきました。筑波メディカルセンター病院は当院と比べると決して乳がん症例数が多い施設ではありませんが、日本の乳腺画像診断の指導的立場にある、非常に高名な先生方が多数おられる病院です。特に、組織の弾性を画像化するエラストグラフィによる診断技術は非常にレベルが高く、その開発・普及に尽力された先生に直接ハンズオンで技術指導していただくことができました。



▲隣接するつくば総合健診センター 細やかな心遣いが感じられました

筑波メディカルセンター病院では、乳腺超音波検査は乳腺科の先生方が外来診察室で行います。そのため、週のほとんどは乳腺科の外来を見学させていただきました。日々多くの患者さんを診察していく中で行われる超音波検査は、短時間で無駄がなく、非常に効率的で臨床に直結した印象を受けました。エラストグラフィは検査の効率化にも貢献しており、良悪性の鑑別に有用だけでなく、それにより不必要な生検などの侵襲的な検査を減らせる可能性もあります。また、乳腺診療全体を見学しながら超音波検査を学ぶことは、超音波検査に求められているものを改めて考えるきっかけとなりました。

さらに、筑波メディカルセンター病院だけでなく、隣接したつくば総合健診センターでの乳がん検診見学や水戸市にある茨城県メディカルセンター、茨城県総合健診協会への同行もさせていただきました。茨城県の各地方で検診車によって行われた膨大な乳がん検診画像も先生方が遠隔判定をしており、茨城県は検診から乳腺超音波検査のレベルが非常に高く、検診から精査までの乳腺診療の体制が非常に整っていると感じました。

今回の研修では、エラストグラフィをはじめとした技術の向上だけでなく、地域全体の乳腺診療のレベルアップを考える機会となりました。研修で得た技術と経験を活かし、より質の高い超音波検査を目指していきたいと思います。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



▲外来診察室には超音波装置がコンパクトに設置されています



中央手術部 ～よりよい周術期看護を目指して



中央手術部 看護師長 川野 孝司

当院手術部では13診療科の手術を行っており、2015年の手術件数は3,852件となっています。地域がん診療連携拠点病院であり、がん疾患に対する鏡視下手術が多く行われています。また総合周産期母子医療センターとして、24時間365日緊急手術にも速やかに対応できる体制を整えています。肩関節鏡・脊椎

手術など特殊な手術も多く行われています。今年度新規採用者3名を迎え、看護師36名（看護師長1名・主査4名）看護補助者3名で手術看護業務に取り組んでいます。

多くの若く元気なスタッフが中心となり活躍しています。ベテランスタッフも若者に負けじと経験を活かし頑張っています。スキルアップを目指してスタッフ同士がお互いに刺激し合う、とても活気あふれる職場となっています。手術看護認定看護師による最新手術看護情報



▲手術部の仲間たち

の提供やハイリスク症例報告会を行い、安全で質の高い周術期看護ケアの提供を目指しています。

「手術部から院内を盛り上げていく」を合言葉に、日々業務に取り組んでいます。その一つとして院内野球部・フットサルチームともに手術部を中心に活動を開始し、医師・看護師・理学療法士・放射線技師な

ど他職種との交流を深めています。

手術を受けられる患者さんは病気そのものの不安に加え、麻酔や手術に対する不安はとても大きいと思います。執刀医や麻酔科医と連携し、チームで一つの手術を成功させるという連帯感を持ち、周術期看護に取り組んでいます。

周術期管理チームとして他職種と協働し、急性期医療の中核として機能していけるようにスタッフ一同努力していきたいと考えています。



▲野球部



▲フットサルチーム

Topics | トピックス |

なかよし保育所 運動会

医療センターでは、職員向けの院内保育所(なかよし保育所)を設置しており、現在、園児約30人の保育を24時間体制で行っています。

さて、去る10月1日(土)、なかよし保育所の運動会が白銀中学校でありました。前日の雨により体育館での開催となりましたが、園児はみんな元気いっぱい、かけっこ・遊戯・親子競技をがんばりました。

これからも、お子さんのいる職員が安心して働けるように、保育所運営を行ってまいります。

●保護者のコメント

仕事をしながら、遅くまで預けていることも多い中、なかなか関わる事ができず、泣いている事が多い時期もありましたが、運動会の様子をみて、日々成長していることを感じ、感涙しました。いつも親と同じように優しい眼差しで関わっていただいている保育所の先生に感謝しています。

小長光 明子(看護師)



新任 医師 紹介



つちだ さわ
土田 佐和

所属診療科／耳鼻咽喉科
得意分野／耳鼻咽喉科一般

自己PR

10月から赴任いたしました。地域のみなさまのお役に立てるよう、日々精進していききたいと思います。よろしくお願いいたします。



おかむら こうじ
岡村 晃資

所属診療科／呼吸器内科
得意分野／呼吸器内科一般

自己PR

10月より赴任いたしました。まだまだ未熟者ですが、地域の皆様のお役に立てるよう、精一杯頑張ります。どうぞよろしくお願いいたします。



きた い よし かず
北井 良和

所属診療科／腫瘍内科
得意分野／腫瘍内科一般

自己PR

まだまだ未熟者ですが、日々精進していききたいと思います。よろしくお願いいたします。



American Car Life!

薬剤課 薬剤師長
米谷 頼人



スーパーカー消しゴム、プラモデル、ラジコン。私はこれらの言葉に反応してしまう世代であり、少年時代は完全に魅了されていました。高校を卒業すると自動二輪の免許を取得し、バイトして貯めたお金でバイクを購入。本物を手にした喜びと、自由を手にした感覚は今でも忘れられません。二十歳の時、友人がハーレーダビッドソンを購入。拝借しアクセルを開けると、大排気量が生み出す鼓動と力強さに魅了されていました。こうなると頭の中はそのことしかありません。バイク屋の片隅にあったホコリまみれの旧型ハーレー。ルイ・アームストロング少年がショーウィンドウ越しにトランペットを眺めているような日々が続き、店主から安く譲ってもらうことができました。故障も多く苦労しましたが、私の「Do It Yourself」の原点となっています。



▲妻と私のAmerican Car

古い車を維持するために必要な部品が今でも供給可能ということです。もちろん修理は「Do It Yourself」。時には友人の助けを借りながら、休日に油まみれで作業することもあります。なるべくお金をかけないように維持しています。今では愛車のために家を建て、もともと車好きだった妻と、その環境で育っている娘と一緒にガレージライフを楽しんでいます。

環境問題が社会的な問題となっている今、燃費の悪い古いアメリカ車は、実用的な車でないと認知されています。しかし、使い捨ての日本車に比べ長生するでしょう。アメリカではオイル交換などを自分でする人が多いそうです。将来、娘はオイル交換を自分をするのでしょうか？ それとも使い捨て電気自動車に乗っているのでしょうか？ どちらでも良いのでしょうか。



▲ガレージでメンテナンス

30歳代に入ってから国産旧型自動車にも乗り始めました。その後、ハーレー同様にアメリカ車に興味は注がれます。桁外れの大排気量から生まれる力強さ、その力強さを全面に押し出すデザインに魅了されました。1973年にオイルショックが始まる前までのアメリカ車は大排気量でボディも大きく、まさに黄金時代と言われていました。その黄金時代にタイムスリップしてしまいました。もう一つの魅力が、



▲仲間や家族とイベントに参加

登 録 医 師 会 社 紹 介

+

INFORMATION

所 在 地：小倉北区下富野4丁目21-13

院 長：清水 透子

電話番号：093-551-0602

診療科目：皮膚科・小児科・

F A X：093-541-2261

内科・小児神経内科

清水ファミリークリニック

診療時間	月	火	水	木	金	土	日
9:00~12:30	○	○	○	○	○	○	×
14:00~17:30	○	○	×	○	○	×	×

アピールポイント

近隣にお住まいの方のニーズにあわせて、子供さんから高齢者の方までファミリークリニックとして幅広く診療にあたっています。

親切、丁寧、誠実をモットーに皆で力をあわせて頑張っております。

市立医療センターへの一言

小児科、総合診療科、皮膚科など、多岐にわたり多くの先生方に変にお世話になっており、心強く思っております。連携医療機関として、今後ともよろしくお願い致します。



+

INFORMATION

所 在 地：八幡東区枝光4丁目3-14

院 長：田原 敬士

電話番号：093-681-8651

診療科目：整形外科・

F A X：093-681-8652

リハビリテーション科・外科

医療法人 田原整形外科医院

診療時間	月	火	水	木	金	土	日
9:00~12:30	○	○	○	○	○	○	×
14:00~18:00	○	○	○	○	○	×	×

※土曜日は13:00まで

アピールポイント

田原整形外科は、スポーツ医学を軸にした治療に取り組んでおります。ギラヴァンツ北九州をはじめ、北九州のさまざまなチームにスポーツドクターとして関与し、当院の理学療法士がチームのトレーナーとしてサポートしております。また、八幡東区は高齢化が進んだ地域です。一人ひとりの患者さんにベストな医療を目指して、病院スタッフ一丸となって常に考え努力して参ります。

市立医療センターへの一言

当院では、リハビリテーションを中心とした保存的治療を行っております。しかし、整形外科疾患でも観血的治療が必要な場合もありますので、医療センターでの最新の医療を患者さんにお勧めし、ご紹介させていただいております。



医療連携室だより

平素より、当院の地域医療連携推進につきまして、ご理解とご協力をいただき心から感謝いたします。

4月より医療連携室では後方支援活動の強化として入院センターでの退院支援に取り組んでいます。退院支援が必要な患者さんを早期に把握し、入院後は医師、病棟スタッフ、連携室看護師、医療ソーシャルワーカーとのカンファレンスで退院支援計画を立案し、生活の場に帰るためのチームアプローチを行っています。患者さんの意思決定支援を第一に考え、他職種との連携を図り、さらに充実した支援に繋げていきたいと考えています。

また退院後も患者さんが継続するケアを受け入れ安心して在宅療養を行うためには、訪問看護ステーション、介護事業所等と医療管理上の課題や、生活・介護上の課題を情報提供し連携することは大切となります。

先日、退院調整で連携させていただいた訪問看護ステーション、在宅医療・介護連携支援センターへ訪問させていただき、支援の現状や患者さんの経過などの貴重なお話を伺いました。患者さんの在宅での経過やご家族の思いな

ど、情報共有する機会を持つことで連携を行った過程を振り返り、今後の退院支援・調整に活かす励みとなりました。

今後も顔の見える連携を行い、患者さんの立場に立った後方支援活動に努めていきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

地域医療連携推進担当係長 播磨 由美

連携室内の様子

お知らせ

当院は地域医療支援病院として、地域の医療機関との機能分担と医療連携を推進し、がん診療をはじめとする高度医療をより多くの方々に提供することに努めております。

さて当院では10月1日よりすべての診療科で、初診時に紹介状のない患者さんには、まずかかりつけ医等を受診し、紹介状を持参した上で、当院を受診していただくようお願いすることになりました。

皆様のご理解とご協力の程、何卒よろしくお願い申し上げます。

地域医療連携推進担当係長 佐藤 美登里

【医療連携室】

TEL 093-533-8660(直通) FAX 093-533-8718 <http://www.city.kitakyushu.lg.jp/page/hospital/center/>
E-mail:byou-iryuu-renkei@city.kitakyushu.lg.jp ※患者さんのご紹介は、E-mailでは受付けておりません。

編集
後記

当院は地域医療を担う病院として、また自治体病院として、県や国が示したガイドラインに沿って構想・プランの策定が求められています。今回は北九州市古川病院局長に解説をお願いしました。

その中でも触れられていますが、当院の重要な柱であるがん診療に関して、患者さんご家族への支援体制をさらに充実強化する必要があり、この度「がん看護外来」が開設されました。がん看護関連の認定看護師がより専門的な知識を持ってお話を伺い対応することで、患者さんの不安苦痛が少しでも緩和することを願っています。(山野)

【表紙写真について】

就学前の幼児を持つ職員にとって、夜間保育を含め子供を安心して預けられる保育所の存在は欠かせません。当院に併設されている院内保育所「なかよし保育所」は昭和40年9月、前身の北九州市立小倉病院時代に設立されました。写真は10月1日に行われた運動会の模様です。今回で第46回目を迎えました。

広報委員会「輪」編集委員

山野裕二郎 山方伸茂 山本智美 高瀬真弓 佐藤美登里
高見将彦 天野健司 中山俊輔

9

10